

各位

2026 年 7 月 28 日

株式会社 GRCS

**統合セキュリティ管理ツール「CSIRT MT.mss」に国際標準規格
「SPDX」に対応したデータ入出力機能を搭載
シームレスな情報管理でサプライチェーンのリスクマネジメントを支援**

株式会社 GRCS（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：佐々木 慈和、以下 当社）は、当社が開発・提供する統合セキュリティ管理ツール「CSIRT MT.mss」において、国際標準規格「SPDX」※に対応したデータの入出力機能（以下 本機能）をリリースしたことをお知らせいたします。本機能の活用により、サイバーセキュリティにおいて重要性を増すソフトウェア情報の管理を正確に、少ない作業コストで実現できます。

<背景>

近年急増している企業やサプライチェーンを標的としたサイバー攻撃において、標的とする企業が直接管理していないオープンソースソフトウェア（OSS）やサードパーティ製コンポーネントの脆弱性を狙い、内部侵入や情報の改ざん、情報漏洩を引き起こす攻撃が大きな脅威となっています。

こうした脅威への対策として、自社で開発する製品や使用するシステムに含まれるすべてのソフトウェア部品を把握、管理する SBOM（Software Bill of Materials／ソフトウェア部品表）の活用が製造業を中心に世界的に求められていますが、多様なベンダーから提供される膨大な情報を管理するのは困難であり、データの表記揺れや構成情報の複雑化が、運用上の大きな課題となっていました。

<本機能について>

本機能は、国際標準規格「SPDX」に準拠したデータの入出力に対応し、統合セキュリティ管理ツール「CSIRT MT.mss」上での SBOM 情報の一元管理を実現するものです。

- インポート機能
サプライヤーから提供された SPDX ファイルを読み込み、「IT 資産」「システム構成情報」「カタログ」などのレコードを自動生成し、コンポーネント同士の複雑な階層構造（親子関係・依存関係）も正確に再現します。
- エクスポート機能
管理している IT 資産や構成情報を、ワンクリックで「SPDX」に対応した JSON ファイルとして出力し、出力の履歴も自動保存します。
納入先企業や、規制当局からの要求に対し、国際標準フォーマットで迅速にデータを出力・提示することが可能です。

CSIRT MT.mss URL：<https://www.grcs.co.jp/products/csirtmt>

本機能の活用により、企業はサプライヤーから受領した SPDX ファイルをインポートするだけで、社内に潜む OSS やライブラリの脆弱性を監視し、リスクを即座に特定し迅速な対応を行うことができます。また、ソフトウェアベンダーは自社製品の SBOM データをワンクリックで出力・提示することで、製品の信頼性を高めることが可能です。

当社は今後も情報管理の自動化・高度化を推進し、企業が抱えるサイバーセキュリティリスクの低減と、ガバナンス・リスク・コンプライアンス（GRC）体制の深化に寄与してまいります。

※ SPDX (Software Package Data Exchange)

ソフトウェアに含まれるコンポーネント（部品）、ライセンス情報、著作権、およびセキュリティの脆弱性情報を記録するための国際標準規格（ISO/IEC 5962）

<会社概要>

会 社 名：株式会社 GRCS

代 表 者：代表取締役社長 佐々木慈和

所 在 地：東京都千代田区丸の内 1-1-1 パレスビル 5F

設 立：2005 年 3 月

資 本 金：131 百万円

上場市場：東京証券取引所グロース（証券コード：9250）

事業内容：GRC・セキュリティ関連ソリューション事業

U R L：<https://www.grcs.co.jp/>

本プレスリリースに関するお問い合わせ先

株式会社 GRCS I R 担当

E-mail: ir@grcs.co.jp